

# 第5回「社会科教育研究の方法論の国際化プロジェクト」シンポジウム

主催 全国社会科教育学会(JERASS)

共催 科研「社会科教育研究・実践の改善に資する研究法ハンドブックの日米共同開発」

科研「東アジアにおける米国の社会科教育論の受容とインパクト」

# ナショナルスタンダード時代の 社会科カリキュラム研究

National Council for the Social Studies

NATIONAL CURRICULUM  
STANDARDS  
for SOCIAL STUDIES

A FRAMEWORK for  
TEACHING,  
LEARNING,  
ASSESSMENT

## 日時

2012年3月3日(土)13時15分～17時

## 会場

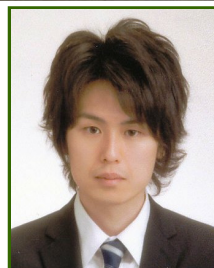
公共交通機関をご利用ください

立命館大学 朱雀キャンパス1階 多目的室  
(JR・京都市営地下鉄「二条駅」から徒歩2分)

- ▼ 90年代中盤以来、米国ではナショナル・スタンダードが定められ、教育の標準化の動きが強まっています。同時に、カリキュラムとはそもそも何のために誰のために存在するのか、カリキュラムの機能・教員の役割とは何なのか…このような問いも提起されるようになりました。米国の教育学では、上の状況に対応するべく、さまざまな理論武装が展開されています。
- ▼ 上の状況は、1955年前後の日本の状況にも似ています。ある意味で、わが国の教育学は米国より半世紀も早くナショナル・スタンダード問題に直面し、教育学は独自の研究方法論を編み出しながら、これに対処してきました。教科教育学(社会科教育学)の存在と一連の研究成果は、その産物と言えるでしょう。
- ▼ このような日米両国の歩みを、米国のカリキュラム研究の第一人者・スティーブン・ソーントン氏はどのように評価しているのでしょうか。また今後の研究戦略をどのように描いているのでしょうか。今回のシンポジウムではこれらの点に焦点化して議論を進めていきます。



ソーントン先生



山田秀和先生



渡部竜也先生

## プログラム 進行 溝口 和宏(鹿児島大学)

- 13時15分～13時30分 開会のことばー趣旨説明ー
- 13時30分～15時00分 米国ナショナル・スタンダード時代の社会科カリキュラム研究
- 15時00分～15時15分 休憩
- 15時15分～15時45分 日本の学習指導要領下における社会科カリキュラム研究
- 15時45分～16時50分 指定討論, フロアとの意見交換
- 16時50分～17時00分 閉会のことばーまとめに代えてー

- 草原 和博(広島大学)
- スティーブン・ソーントン(南フロリダ大学)
- 山田 秀和(岡山大学)
- 渡部 竜也(東京学芸大学)
- 桑原 敏典(岡山大学)

**Dr. Stephen J. Thornton:** オーストラリア生まれ。スタンフォード大学で教育哲学者ネル・ノディングスの薫陶を受ける。コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジの准教授を経て、現在は南フロリダ大学の教授。カリキュラム論・教授学習論から、教育史・思想史、教師教育論まで幅広く論ずる米国を代表する社会科教育研究者。デューイアンならびにゲートキーパー論の提唱者として知られる。主著に、*Teaching Social Studies That Matters: Curriculum for Active Learning* (Teachers College Press)。